

【音楽の苦手な先生もそんな授業づくり・学級づくりにチャレンジ！】

1. 音楽が苦手な先生は、音楽を教えることは出来ないのか？

- ・苦手なことは、逆にいえば、嫌なことやつらさを知っているということ。
- ・逆上がりが出来なくても、逆上がりは教えられる・・・ということは音楽でも・・・
- ・ピアノが弾けない、歌が下手、楽譜が読めない・・・でもなんとかなるのでは・・・

2. 遠慮せず教えてもらおう 音楽の先生に、先輩に・・・

- ・どうしたらいいのか初歩の初歩から教えてもらおう。これは恥ずかしいことではない、むしろそんな先生の姿勢をみて、先輩は必ず応援してくれる。
- ・遠慮せずに「つくって下さいと依頼する」 音楽テープ、カラピアノテープを。

3. 元気よく大声がいいの？ それともきれいな頭声発声？・・・気持ちがいいのは

- ・人が気持ちよく歌っているときは、地声か、頭声か？ 大声か、小声か？
- ・音楽の授業が嫌いな人でも、音楽が好きな人はいっぱいいる。
- ・自分がなぜ苦手になったのか。なぜ嫌いなのか考えてみる。音楽授業の改善へ

4. 発声練習は大事・・・だから楽しく気持ちよく

- ・♪恋は水色 → ダンスと共に ・教科書使って、えんつつ式発声
- ・「静かにしなさい！」を発声練習で ・歌詞も「心を合わせて歌おうよ」
- ・階段は、身近なコンサートホール → きれいに響いて気持ちがよくなる

5. 歌が上手になる指導のコツは、ほめる、ほめる、ほめる・・・そして書く、話す

- ・自分が下手だからこそ、ほめ上手になれる ・学級通信に書くともっとよくなる

6. 歌で始まり、歌で終わる一日に・・・そんな環境が子どもを変える

- ・朝の会、終わりの会では、歌を歌う → 日番ができるようにしておく（CD準備）
- ・子どもが希望すれば、好きな曲はどんどんダビングしてやる。

7. いろんな場所で、歌う機会をつくる・・・音楽が生活の中に入り込む

- ・保護者の前でミニコンサート ・ランチルームで調理員さんたちに歌のプレゼント
- ・敬老会で、なつかしい歌の披露 ♪ふるさと♪赤とんぼ
- ・遠足・須磨の「海へ行こう」山を「ゆかいに歩けば」そして「若草山コンサート」
- ・転校する子とのお別れ会「さようなら〇〇さん」・・・思わず泣いてしまう
- ・卒業式は、その最後の晴れ舞台・・・1週間前のさようならコンサートも

8. 曲の選定は、とっても大事・・・どの歌を選ぶかによって声も学級も変わってくる

- ・地声ではなく、頭声で歌いやすい曲を選ぶ ・詩が子どもの心に入る曲を選ぶ

9. 歌は、思い出とセットで記憶されていく。 ・歌で泣ける、そんな体験をしたい